

宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展

© Nibariki



大切な本が、一冊あればいい。—— 宮崎駿

リレー随筆

ケストナーのこと

鈴木 敏夫

ディズニー映画に「民にかかったパパとママ」という映画がある。両親の離婚によって引き離された双子の姉妹が、偶然、出会い、ふたりの大活躍によって、両親が元の鞘に収まるという話だが、中学生だったぼくは、この映画に夢中になった。

理由のひとつは、当時、ぼくの両親が離婚したこと。それともうひとつが、主役のヘイリー・ミルズの大ファンになってしまったことだ。彼女は本当に可愛かったし、その後、ぼくは彼女の映画を見続けることになる。そして、ぼくは、生まれてはじめて彼女に宛てて、ファンレターを書いた。むろん、返事は来なかったが、後に、ディズニーと仕事をするようになって、ぼくは、およそ45年ぶりに彼女から返事もらった。余談になるが、これは、ぼくがディズニーと付き合って、一番、うれしかった出来事だ。

この映画の原作が、ケストナーだと知ったのは、ぼくが大学生になってからだ。ぼくは、

なけなしのお金をはたいて、ケストナー全集を買求め、何度も何度も読み返した。最初は、その原作「ふたりのロッテ」。そして、「点子ちゃんとアントン」「動物会議」「エミールと探偵たち」「飛ぶ教室」と読み進んだ。それらの本を読むことで、ぼくは、たぶん、自分のことを知りたい欲求に駆られたんだと思う。後に、ケストナーが、ナチスに抵抗した作家だと知って、その理由が何だったのかも勉強することになる。

多感な時期に、一冊の本と出会うのは、その人の人生を決める。いま、思い返すと、ぼくがこうして、スタジオジブリの責任者として仕事をしている原点は、ケストナーを読んだことが大きいのだろう。宮崎駿が推薦する岩波少年文庫の50冊の中から、一冊の本を探してみてください。

(スタジオジブリ・プロデューサー)



高知県立文学館

高知県立文学館ニユース

藤並の森

Vol. 54

展覧会 紹介

宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展

岩波少年文庫創刊60周年記念「借りぐらしのアリエッティ」DVD&ブルーレイ発売記念

平成23年
7月2日(土)
▼
9月4日(日)
企画展示室

観覧料500円

高知県立文学館では、毎年夏休み

期間に、子どもから大人まで幅広く楽しんでいただける展覧会を開催しています。今年は、岩波少年文庫創刊60周年を記念して、「宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展」と題した展覧会を開催します。スタジオジブリ作品の源流とも言うべき「児童文学の世界」をお楽しみください。

●本との出会いのかけはしに

《有名すぎて、この本についていまさら書く書くことはありません。あなたがまだ読んでいないのなら、ぜひ読んでみて下さい。》

なんと自由な少年の時代！

なのに、この本はとてもきゅうくつな時代に書かれたのです。なにしろ、子供に悪い影響を与える本とされたんですから。今の時代にそんなことを言う人はいません。ずっと自由な時代なのです。それなのに、子供達はずっときゅうくつに生きています。おかしな話ですね。》

右の言葉は、『トム・ソーヤーの冒険』（マーク・トウェイン作、石井桃子訳、1952年刊行）についての宮崎駿さんの推薦文です。

アニメーション映画監督である宮崎さんの推薦文には「創る人」ならではの鋭い視点がある一方で、子ども達に向けるまなざしの温かさを感じられます。

なかには、《…(前略)…：ぼくは何回読まかけても この本をさいごまで読めません。まったく不思議なことです。》という率直なコメントもあります。

今回の展覧会は、400冊にもおよぶ岩波少年文庫作品の中から、宮崎さんが実際に本を手にとり、3ヶ月かけて選んだ50作品を直筆で紹介するもので、誰もが知っている作品から、今では入手困難となつている幻の名作まで、懐かしい挿絵を交えて展示しています。

●岩波少年文庫の歴史

岩波少年文庫は、戦後まもない1950(昭和25)年に創刊されました。それまでの翻訳・翻案のあり方に異をとнаえ、「世界の児童文学の古典と新しい名作を、正確で美しい日本語で紹介する」ことを柱とし、『宝島』(ステイブンソン作/阿部知二訳)や『三銃士』(アレクサンドル・デュマ作/生島遼一訳)、『クマのプーさん』(A.A.ミルン作/石井桃子訳)、『星の王子さま』(サン＝テグジュペリ作/内藤濯訳)といった永遠の名作を、日本の少年少女たちに届け続けてきました。

展覧会では、戦後から現代までの岩波少年文庫60年の軌跡も紹介するとともに、日本を代表する児童文学者・石井桃子さん(1907-2008)の紹介もあわせて展示しています。



展覧会

紹介
Exhibition

宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展

岩波少年文庫創刊60周年記念「借りぐらしのアリエッティ」DVD & ブルーレイ発売記念

平成23年
7月2日(土)

9月4日(日)
企画展示室

観覧料500円

☆展示解説

展覧会担当者による
展示解説を行います。

毎週土曜日と7月3日(日)・
10日(日)・24日(日)・31日(日)・
8月14日(日)・28日(日)・
9月4日(日)

各日とも午後1時半～
(約30分)
参加には**当日観覧券**
が必要です。
直接会場にお越しください。

子どもはもちろん、大人までが夢を託し、感動できる良質の作品を届けてきた岩波少年文庫や石井桃子さんの信念は、宮崎駿さんの作品を作る信念とも共通しています。宮崎さんの推薦文をみて、興味をひかれた本をぜひ手にとって読んでみてください。あなたの人生を豊かにする一冊が必ず見つかるはずです。

石井桃子さんは、1950(昭和25)年5月に岩波書店に入社。嘱託となり、戦争中から構想はあったものの実現に至らなかった少年文学の叢書の企画編集を任され、12月25日、『宝島』、『あしながおじさん』、『クリスマス・キャロル』、『小さい牛追い』、『ふたりのロッテ』の5冊を岩波少年文庫として初めて刊行します。以後も子どものものこそ妥協を許さず、最良のものをという信念をもちつつ、『おもしろくて何度も何度も読んで、人にも聞かせて、いっしょに喜んだものを翻訳』(岩波書店刊『石井桃子集7』児童文学雑感より)し、子どもたちが本の世界と出合える場所を作ることに力を注ぎました。

●立体造形での多彩な展示

スタジオジブリは、これまで『魔女の宅急便』や『ハウルの動く城』など、児童文学を原作にした映画も作ってきました。また、2010年7月に公開された映画『借りぐらしのアリエッティ』は、宮崎さんが約40年前に読んだ『床下の小人たち』(メアリー・ノートン作、林容吉訳、1956年刊行)を米林宏昌監督が瑞々しい作品に仕上げたものです。展覧会では、これまでスタジオジブリが映画化してきた作品を、立体造形で紹介しています。



© 2010 GNDHDDTW

その他、スタジオジブリの新作映画の紹介コーナーもあります。この展覧会にぜひお越しいただき、児童文学の世界をゆつくりとお楽しみください。(学芸課/福富陽子)

◆関連企画のご案内◆

アリエッティになって、写真を撮ろう!

会期中、アリエッティの洋服をイメージした衣装をご用意しています。
あなたもアリエッティになって、記念撮影をしませんか? (カメラはご自身で用意ください。)

衣装協力: 高知文化服装専門学校

菊川 翔子さん (服装科2年)
南 沙希さん (服装科2年)
今西 早絵子さん (服装科2年)
田上 佳和さん (服装科2年)
吉川 佳南さん (服装科1年)



© 2010 GNDHDDTW

スタジオジブリ最新作「コクリコ坂から」公開記念!

■クイズに答えて映画鑑賞券を当てよう!

開催日: 7月16日(土)・17日(日)・18日(月・祝)

場 所: 文学館2階 企画展示室 各回とも午前9時～午後4時30分まで

内 容: 展示を見ながら楽しくクイズを解きましょう! 正解数に応じて、素敵な景品をプレゼントします。さらに、抽選でスタジオジブリ最新作「コクリコ坂から」の映画鑑賞券をプレゼント!!

参 加: 参加には**当日の観覧券が必要です**。(定員はありません)

■工作イベント 猫のニヤの灯ろうを作ろう!

開催日: 8月7日(日)・21日(日) 各回とも午後1時～4時

場 所: 文学館1階ホール 定 員: 各回とも50名

内 容: 夏休みの宿題にぴったり! 簡単なキットと和紙で「借りぐらしのアリエッティ」に登場する猫のニヤをイメージした灯ろう(ランプシェード)を作ってみよう!

参 加: 参加には**当日の観覧券と材料費(300円)が必要です**。

申 込: 電話または文学館受付で、先着順にて受け付けます。



■朗読の会

開催日: 7月16日(土) 午後2時～4時

場 所: 文学館1階ホール

内 容: 岩波少年文庫の作品を、文学館朗読カルチャーサポーターのみなさんが朗読します。

参 加: **無料**
当日、直接会場にお越しください。
(定員はありません。)

■文学館おはなしキャラバン!

開催日: 7月2日(土)・8月6日(土)・9月3日(土)

各回とも午後2時～[約30分程度]

場 所: 文学館1階 こどものぶんがく室

内 容: 岩波少年文庫の作品から「せむしの小馬」などの作品を文学館カルチャーサポーターが子どもたちに読み聞かせます。

参 加: **無料** 当日、直接会場にお越しください。(定員はありません)

横山隆一と 鎌倉文士と高知展

関連企画の報告

5月1日、鎌倉文学館の館長であり、里見弴の四男である山内静夫さんと、横山隆一の次男横山隆二さんによる対談が行われました。

対談の中で、ふたりは横山隆一と久米正雄、里見弴、大佛次郎といった鎌倉文士との交流を「夜な夜な文学論議に参加し、朝まで帰ってこなかった」、「酔っぱらった文士たちが取っ組み合いをしたり、障子を破いたり」と子どもたちは部屋の間で怯えていた。でも、横山さんがくると場が和んだ。人徳だよな。」など、お酒が絡んだエピソードも交えながら、当時を振り返りました。

山内さんが「横山隆一は、人との交わりの中に人生の喜びを見出した人、漫画家の枠にとらわれずに、育んだ鎌倉文士との交流を文学史の1ページとして知って欲しい」と言えば、隆二さんは「鎌倉の地で作家達に愛された父は幸せだった」と目を潤ませていました。

64年の間、鎌倉の地で、漫画家という枠を越え文化人として活動続けた横山隆一の紹介に会場からは「子どもさんならではの、当時の貴重な話が聞けてとてもよかったです」などの感想をいただきました。



▲対談の様子

また、4月17日、5月17日、6月2日の3日間、県内の横山隆一ゆかりの地を歩いて巡る「横山隆一記念まんが館と文学の旅」を開催しました。

横山隆一の母校、追手前高校（旧制城東中学校）

や高知市内にある横山隆一デザイン看板、はりまや橋にある「純真お馬」像などの彫刻、市内各所に植えられている「フクちゃん桜」（八重桜）などを見学、最後に「横山隆一記念まんが館」を訪ねました。

屋敷は、まんが館があるかるぼーと1階の「タンドルトール」で「オリジナルフクちゃん弁当」を特別に作っていただきました。横山隆一の好きだった「鰹や虎杖」など、高知の旬の素材を使った料理とともに、フクちゃんクッキーも焼いていた。この特別メニューは、参加者の皆さんに大変好評でした。

今回は、鎌倉への文学散歩も企画していましたが、急遽中止となり、参加者からは、是非、鎌倉文学館を訪れたいとの声を多くいただいています。

また、5月29日（日）には、記念鼎談「横山隆一さんの魅力を読む」と題しまして、鎌倉文学館の課長 小田島一弘さんと横山隆一記念まんが館の学芸員 奥田奈々美さんを中心に、津田の進行のもと「横山さんと鎌倉文士との交流」や「作品の魅力」などを語っていただきました。

台風接近という生憎の大雨の中、来高くださった小田島さんと奥田さんに、会場からは惜しみない拍手が贈られました。

（学芸課長／津田加須子）



▲文学散歩の様子

館長室から

「岩波書店と岩波茂雄のことなど」

元吉 喜志男

岩波少年文庫創刊60周年記念「宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展」を前に、岩波書店や創業者・岩波茂雄のことなどを思い起こしている。

岩波書店が日本文化に貢献してきた役割は極めて大きなものがある。岩波書店は出版物の内容や販売方法などからも出版社として独特の哲学が伝わってくるが、学生時代に『岩波茂雄伝』（安倍能成著）を読んでその思いを益々強くしたことがある。

岩波書店の創業者・岩波茂雄は、一高時代、「巖頭之感」を残して命を断った藤村操の影響も受け、自らも野尻湖中の弁天島に40日間孤棲したりしている。若い時からの真善美の理想に対する憧れや、愛や友情に生きる心は、後年の出版事業でも強い基盤となり大きな支えとなっていることが伺える。理想に合わない情熱と精励を持って携わっていた教育界を去り、神田で古本屋を始めた彼は、虚偽と掛引を極度に嫌う性格と頑とした道徳的信念で「古本正価販売」という当時の世間常識を覆した行動を貫いた。出版事業を開始してからは、後に漱石全集の出版元になる素因を作った漱石・自費出版の「こころ」や日本の思想界に大きな影響を与えた「哲学叢書」の創刊など、次々に斬新な取り組みをしている。

高知県立文学館の寺田寅彦記念室に岩波茂雄の写真がある。「漱石全集」を手掛けた時の編者の一人である寅彦は、その後も「科学叢書」及び「通俗科学叢書」の編集者として刊行に関わるなど、岩波書店が科学分野でも名をなした背景には寅彦に負う所が多い。寅彦の死後も岩波書店の茂雄の部屋には彼の遺影が掲げられていたという。一九二三年に『冬彦集』『数柑子集』を出して以来、寅彦の随筆は殆ど岩波書店から出ている。

こんなことに思いを馳せながら、岩波少年文庫創刊60周年記念の展覧会を高知県立文学館で開催出来る意義を改めて感じている。

日本近代詩のさがけ ― 植木枝盛の「自由詞林」 ― 猪野 睦

先日、高知市の桜馬場通りの青葉の下をあるいた。この公園には横村浩詩碑、馬場孤蝶句碑、寺田寅彦文学碑、そして竹本源治の反戦詩碑が、高知の文学碑通りと呼ばれるにふさわしく緑のなかに映えていた。

いわば高知の文学案内コースにもなっているが、その横村浩詩碑と道路ひとつへだてたところに植木枝盛旧邸があった。あつたというのは今年4月、老朽化のためとりこわされたからである。この植木枝盛もまた、自由民権運動家であるとともに詩人でもあった。

植木枝盛は明治14年、この旧邸で現在の日本国憲法草案に生かされた東洋日本国憲案をかけた。そのバラ色の壁の書斎も重要な文化財だった。解体とともにこの書斎は、市民の浄財によって棧橋

▲とりこわされる前の植木枝盛旧邸



通りの高知市立自由民権記念館に移設された。

日本の近代詩のさがけとなる外山正一、矢田部良吉、井上哲次郎らによる「新体詩抄」がでるのは明治15年であるが、植木枝盛はその3年前の12年に「民権田舎歌」をつくり、福岡からだす「民権自由論」に附録として収めた。

そして明治20年10月、この桜馬場の住所を発行所にして「自由詞林」をだした。発行者は高知市の市原眞影だった。「民権田舎歌」とともに日本の近代詩の夜明けを告げるさがけ詩であつた。

「自由の権利がないときは無用の長物益がない」などのリズムのいい50行ほどの「民権田舎歌」につづいて「自由詞林」は、「嗚呼自由てふ 賚は天の与ふる 所なり 之を愛せよ 世の人よ 之を敬せよ 世の人よ」の詩句のまじるアメリカ、スイスなどの独立をたたえる詩とともに「自由歌」と題した350行をこす詩である。

この「自由詞林」がでた明治20年10月の高知は民権家たちの地租軽減、言論集会の自由、外交失策の挽回を政府に求める三大事件建白運動が盛り上り、建白書をたずさえ続々上京していた。その運動のたかまりに呼応するようにでたのが「自由詞林」だった。

この「民権田舎歌」と「自由詞林」は「日本現代詩大系」第一巻創成期に収められている。先日ながめた植木枝盛旧邸解体は進みブルーのシートがかかっていたが、ここが1945年敗戦の日まで生き埋めにされてきた植木憲法と「自由詞林」などがかかれた場所であつたのかと、はるかな思いにひたつた。

(詩人)

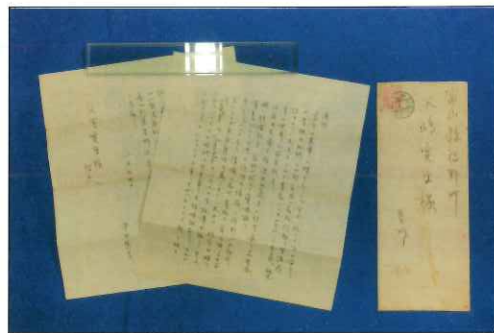
資料受贈報告

― 最近の寄贈資料から ―

「寺田寅彦 書簡 五嶋寛平宛」

便箋2枚ペン書

1932(昭和7)年1月24日付



宛先の五嶋寛平は富山県福野町で郵便局長をつとめていた人物で、弟には建築家の吉田鉄郎がいます。寅彦の甥・別役亮が農学校教諭として福野町に赴任していた際、交流のあつた人物で、その縁で寅彦とも書簡を交わしています。岩波書店発行『寺田寅彦全集』には、1916(大正5)年1月14日付から寅彦が亡くなる年の1935(昭和10)年10月11日付の代筆書簡まで71通の五嶋寛平宛書簡が収められており、当館では今回寄贈いただいた書簡をあわせ5通收藏しています。

今回寄贈いただいた書簡は、1932(昭和7)年1月24日付のもので、五嶋氏から送られてきた干柿に対するお礼と近況が書かれています。この書簡の中で、寅彦は「書物も年を取つたせいか古いものが兎角興味を惹くやうに思はれ

受贈報告(平成23年4月・5月) 敬称略

▼藤原恒昭・寺田寅彦 書簡 五嶋寛平宛「矢島祐利 書簡 藤原恒昭宛」他 ▼中森健二「はじめの越境社会文化論―高知へのまなざし・高知からのまなざし―高知大学人文学部編刊」▼五嶋慶子「世界と漱石 国際シンポジウム 報告書 '96くまもと漱石博」推進100人委員会編刊」▼四十万市立図書館「自由・平等・博愛 幸徳秋水の生涯 四十万市立図書館編刊」▼河上迅彦「塔からの眺め 河上迅彦著 風土出版刊」▼香りのある部屋 河上迅彦著 風土出版刊」▼高知福祉専門学校・26のたからもの 高知福祉専門学校創作童話集No.21 高知福祉専門学校編刊」▼城崎陽子「万葉集を訓んだ人々」万葉文化学」のこころみ」城崎陽子著 新典社刊」▼太郎良信「『山芋』の真実 寒川道夫の教育実践を再検討する 太郎良信著 教育史料出版会刊」『生活綴方教育史の研究―課題と方法― 太郎良信著 教育史料出版会刊」他 ▼島村三津夫・詩集 蛇 島村三津夫著 ふたば工房刊」▼中西敏子「歌集 天のみつおと 中西敏子著 ながらみ書房刊」▼原 秀子「春のわかれ 横佐知子文 赤羽末吉絵 偕成社刊」

：所謂新興芸術などに対する反動気分も手伝つて古典が慕はしくなるのかとも考へられ候：と述べ、古代ローマ史やギリシアのソフィストについての書や、サンسكريット語やアラビア語の文法書など「いづれも古色蒼然たるものゝみ」を電車の中などで勉強しているとつづっています。

寅彦は随筆「電車の混雑について」の中で、電車の混雑の周期的な現象を発見し、空いた電車が来るまで気長に待ち(と)いつても長くて1、2分、「正常な座席にゆつくり腰をかけて、落着いた気分になつて雑誌か書物のようなものを読む事になっている。」と述べています。この書簡にあるサンسكريット語やアラビア語の文法書もそのようにして読んでいたのでしょうか。(学芸課/岡本美和)

このほか、全国の個人・関係機関の方々から図録など数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

朗読コンクール

朗コンで出会う本と友だち！

今年も8月下旬に地区審査を開催します！

高知県立文学館では、県内の小中学生を対象とした「第14回児童生徒文学作品朗読コンクール」を開催します。朗読を通して文学に親しむ子どもを育てようと、毎年開催している全国でも珍しいコンクールです。

地区審査(予選)は、8月17日(水)大方あかつき館、19日(金)文学館ホール、22日(月)安芸市民会館の三会場にて行います。県審査は11月13日(日)に文学館ホールにて行います。詳しくは、各学校にお配りしている案内をご覧ください。沢山のご応募をお待ちしています。一般の方々もご覧になれますのでぜひお越しください。

11月の県審査の後に、手島悠介氏による記念講演会を予定しています。手島氏は、1976年に『ふしぎななぎばあさん』で児童文学者としてデビュー、主な著作に、『がんばれ！盲導犬サーブ』、『大地震が学校をおそった』、原稿を題材にした『ナターシャ、チエルノブイリの歌姫』などがあります。貴重な講演が聴けるこの機会に、ぜひ文学館にお越しください。いずれも入場は無料です。

(学芸課／北添尚子)

地区審査&県審査
入場無料
一般公開

◆地区審査(公開)

〈大方会場〉 大方あかつき館
・8月17日(水)午前10時30分～

〈高知会場〉 文学館ホール
・8月19日(金)午前9時～

〈安芸会場〉 安芸市民会館
・8月22日(月)午前10時～



手島悠介先生からメッセージが届いています！

盲導犬サーブのこと

手島悠介

『盲導犬サーブ』が読まれ続けています。盲導犬を初めて世に紹介した作品と自負しています私には嬉しいご褒美です。

取材に名古屋を訪れたとき、テストに合格した犬が去勢されているとは知らず、「サーブにはいい子が生まれますね」などと河西所長に質問するほど無知な私でした。それも今は懐かしい思い出です。

その河西さんが昨年、努力されて協会ビルを新築されてすぐ、五十七歳の若さで亡くなられました。惜しまれる方の死でした。

できました本を知人に贈りましたところ、ある有名市の市長の娘である奥さんから「犬を使役するなど人間は傲慢すぎます」とお叱りを受け、困惑したこともありました。

サーブの無償の行為が、読者の心に小さな種子を播いてくれたら、子どもの本書きとしてこれほど光栄なことはありません。



▲手島悠介先生

ミュージアムショップより

『星の王子さま』『三銃士』『シャーロック・ホームズの冒険』…これらの本を、子供のころワクワクしながら読んだ思い出をお持ちの方も多いのではないのでしょうか？

只今、ミュージアムショップでは若波少年文庫創刊60周年記念・「借りぐらしのアリエッティ」DVD&ブルーレイ発売記念 宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展にあわせ、長く愛されてきたこれらの本を販売中です。

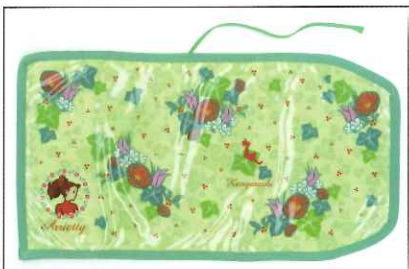
また、原作『床下の小人たち』が映画化された「借りぐらしのアリエッティ」ほか、子どもたちの大好きなトトロ、ジジ、ポニョなどかわいいキャラクターが楽しめる小物、ぬいぐるみ、文具、タオルなどの商品を多数取り揃えてお待ちしております。

きっと、あなたのお気に入りの商品に出会えることと思います。

夏休みの1日、子供も大人も心癒されるスタジオジブリの世界を、ミュージアムショップでもお楽しみください。

(事業課／岡崎由美子)

●ブックカバー …… 税込840円



●ペンホルダー …… 税込840円



展覧会予告

市原麟一郎

よみがえれ土佐民話展

平成23年9月17日(土)～11月13日(日)に開催!

今年で卒寿(90歳)を迎えられる市原麟一郎さんは、今でも土佐民話の紙芝居や戦争体験の語り継ぎ、創作落語の口演など、若い人達から高齢者の方々までを対象に多方面でエネルギーに活躍している土佐民話の第一人者です。



市原さんは多忙な中でも、「笑ってくれる

ことでエネルギーをもらうので、疲れることはない。」

「充実した人生を送るには、世の中のためになる

生きがいが必要。励まし、励まされる毎日に感謝しな

がら、これからも頑張りたい。」と今も尚ボランティア

公演や新しい脚本を手掛け常に心のセンサーを活発

に働かせ続けています。そういった

活動は全国規模で評価され、2010

(平成22)年に70歳以上で自立し、

創造的で生き生きとした人生を送る

高齢者を顕彰する「ニューエルダー

シチズン大賞」にも選ばれました。

この賞の委員長は聖路加国際病院の

日野原重明名誉院長です。市原さん

は正に日野原さんの著書『生きかた

上手』の中に出てくる「いきいきと生

きる」言葉にふさわしい生き方を実

践されている方だと思います。

今回の展覧会は、市原麟一郎さん

が主宰を務める「土佐民話の会」が

創立40周年、代表を務める「文学館語りと紙芝居の会」が10周年という節目の年を記念して、市原さんの「いきいき生きる」極意やこれまで深い愛情を持って育んできた業績の中から、神仏語りやくハワースポット巡り、戦争民話、土佐のおどけ者、民話紙芝居などのテーマを中心にこれまでの歩みの集大成としての実りを感じていただければと思います。



昭和40年代頃から本格的に民話の採集に取り組んできた市原さんは今回の展覧会を「この展覧会は私ではなく、土佐民話」にスポットを当てて貰える絶好の機会ととらえ、土佐民話の魅力を百パーセント引き出し、再評価して貰えたら有難いです。とにかく「土佐民話」の素晴らしさ、秘められた無形文化財の輝きを、県民のみならず、県外から来られた観光客の方たちにも強烈にアピールできたらと考えています。」と述べており、常に先達への感謝の心が伝わってきます。ぜひ、9月からの展覧会にお越しください。土佐民話の魅力を十二分にご堪能ください。(学芸課/門田貴美子)

今秋開催!
お楽しみに

平成23年 9月17日(土)～11月13日(日)

会場：高知県立文学館2F 企画展示室 会期中無休

観覧料：400円(常設展舎) 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

企画展
案内

岩波少年文庫創刊60周年記念・「借りぐらしのアリエッティ」DVD&ブルーレイ発売記念

宮崎駿が選んだ
50冊の直筆推薦文展

会場：高知県立文学館2F 企画展示室

会期中無休！

観覧料：500円（常設展含） 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）

大人には懐かしく、子供には新鮮な永遠の名作たち。

創刊時から400冊をこえる岩波少年文庫を実際に手に取りながら、アニメーション映画監督の宮崎駿さんが、おすすめの50冊を選びました。映画「借りぐらしのアリエッティ」や最新作「コクリコ坂から」を紹介するコーナーもお楽しみください。


 2011
 7月2日
 9月4日

推薦文展の紹介をしています！詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。

堀井真吾さんによる朗読ワークショップの、発表会を開催します！

高知県立文学館では、朗読に興味を持っている方々を対象に、第一線で活躍するプロの声優・堀井真吾さんを講師に招いての朗読ワークショップを開催し、7月31日（日）にワークショップ参加者による発表会を行います。プロならではの指導を受けたみなさんによる朗読を聴きに、ぜひお越しください。堀井さんによる講評もあります。

朗読作品：「幸福の王子」（オスカー・ワイルド作）**入場無料**
 平成23年 7月31日（日）午後1時～
 場所：高知県立文学館1Fホール

 ※朗読ワークショップの受講は好評により
 定員に達しております。ご了承ください。
高知県芸術祭
文芸賞作品募集！
 平成23年度高知県芸術祭では、
 「第40回文芸賞」の作品を募集します。

【公募作品部門】

 ・短編小説 一人一編400字詰原稿用紙で10枚以内
 ・詩 一人一編400字詰原稿用紙で2枚以内
 ・短歌 一人3首以内
 ・俳句 一人5句以内
 ・川柳 一人5句以内

【選賞】

各部門ごとに優秀作品に賞状と副賞

【募集締め切り】

平成23年9月30日（当日消印有効）

【注意事項】

- ・作品は未発表のもの
- ・応募者は高知県在住者
- ・全部門とも自由題
- ・文字は楷書で読みやすく表記
- ・短歌、俳句、川柳は官製ハガキで応募
- ・原稿用紙の場合は、1画に1文字を記入
- ・氏名（ペンネームがあれば併記）、現住所、電話番号、年齢、性別を明記
- ・応募作品は返却しません
- ・ご記入いただく個人情報、運営上の管理及び本人への連絡の用途に限り、利用いたします。ただし、入選作品については、在住市町村名及びお名前・年齢を公表します。

応募
問い合わせ先

〒781-8123

高知市高須三五三二
（財）高知県文化財団内

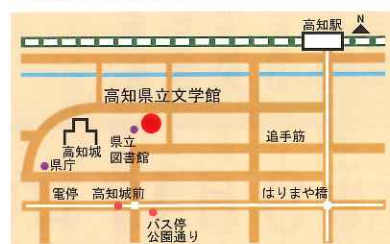
高知県芸術祭文芸賞係 あて

TEL 088-866-8013

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時（入館は、午後4時半まで）
 休館日 年末年始（12月27日～1月1日）を除き、無休。
 観覧料 一般350円
 特別企画展のあるときは、料金が変わります。20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
 駐車場 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶながく室、茶室「慶雲庵」
 貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス（朝倉（高知大学前）行または県庁前行）「公園通り」下車 北へ徒歩5分
- JR高知駅下車徒歩20分（またはバス・路面電車を利用）
- 土佐電鉄電停高知城前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分


 〒780-0850
 高知市丸ノ内1丁目1-20
 電話 088-822-0231
 FAX 088-871-7857

 E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp
 http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/